

W
O
R
K
S
H
O
P



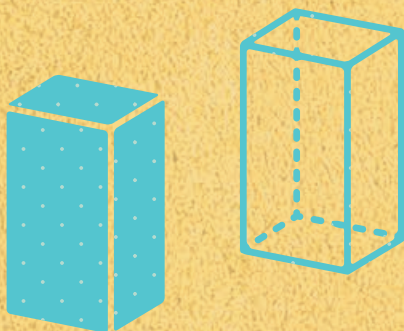
学校や地域で活用できる!

多文化共生ワークショップ集

“Difference is Beautiful”
を目指して



BRAZIL



2019年度 JICA 横浜 教師海外研修参加者作成

研修国：ブラジル連邦共和国

参加型アクティビティ教材

独立行政法人国際協力機構
横浜センター(JICA横浜)

目次

本書について

ワークショップ：My ストーリー ……7

解説書 ……8

写真カード ……10

情報カード ……14

解説カード ……18

ワークショップ：自分オープン ……21

解説書 ……22

ごあいさつ

本書を手にとっていただきありがとうございます。本書には、私たち2019年度 JICA 横浜教師海外研修の参加者が、研修の一環として作成したワークショップ（参加型アクティビティ教材）を掲載しています。

本研修のテーマは「多文化共生と移民」でした。本書に掲載している2つのワークショップは、国内事前・事後研修や、ブラジル連邦共和国での現地研修で私たちが学んだこと、気づいたこと、または疑問に思ったことなどを基に作られたものです。

学校や地域で、多文化が共生する環境づくりのために活用していただけたら幸いです。ワークショップ作成にご助言、ご協力いただいた方々に感謝いたします。

私たちが体験した多文化共生

違いが当たり前

ブラジルでは、多文化共生という概念があまりないように感じました。例えば、訪問した学校の先生方に「多文化共生について学んでいるのでお話を聞かせてください」などと問いかけてみても、「『多文化共生』ということあまり意識していない」という趣旨の回答が多くありました。つまり、ブラジルでは違いがあるのは当たり前で、多様な文化が共生している環境が当たり前、ということなのかもしれません。

違いが美しい

ブラジルで訪問した学校の生徒から、「Difference is beautiful」という印象的な言葉を聞きました。違いが当たり前だけでなく、違いが美しいと思える環境ってすごい！と感激しました。確かに私たちは、アマゾン川周辺を訪れた時に様々な色や形の違いがある蝶を見て美しいと感じました。

それが人間になると、違いが美しいと思えないだけでなく、時には違いがあることをマイナスに捉えてしまうことさえあるのかもしれません。

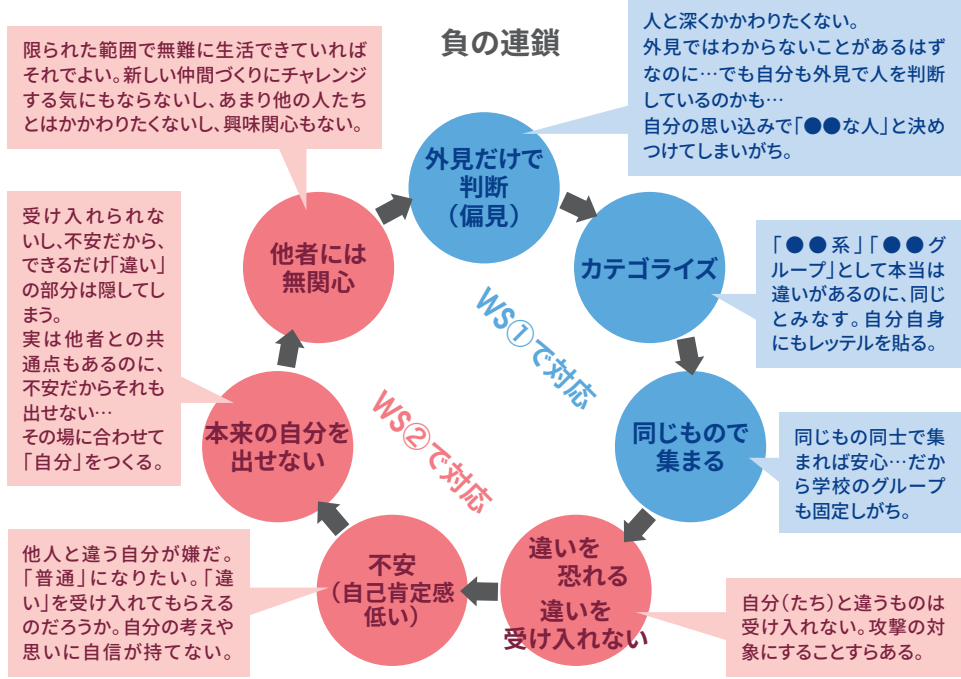
負の連鎖と本書のねらい

次頁 A 図は、学校や地域で陥りやすい負の連鎖の一例を表したものです。もちろん多文化共生を実現させるためにはこの他にもたくさん問題がありますが、私たちは、この「負のスパイラル」をどこかで断ち切りたいと考えながら2つのワークショップをつくりました。2つのワークショップは関連し合っていますが、図の青色の部分はワークショップ①で、赤色はワークショップ②で、それぞれ問題解決の一助になるようにしたつもりです。

B 図は、多文化共生を実現させるための段階の例を表したものです。本書のねらいは、2つのワークショップで負の連鎖を断ち切ることです。そして、私たちがブラジルで体験したように「違いが当たり前」「違いが美しい」と思える人が増えることを次のステップとしてイメージしています。本書をきっかけに、学校や地域に「違いがあって当たり前」、「Difference is beautiful」と思えるような人が増えることを願っています。

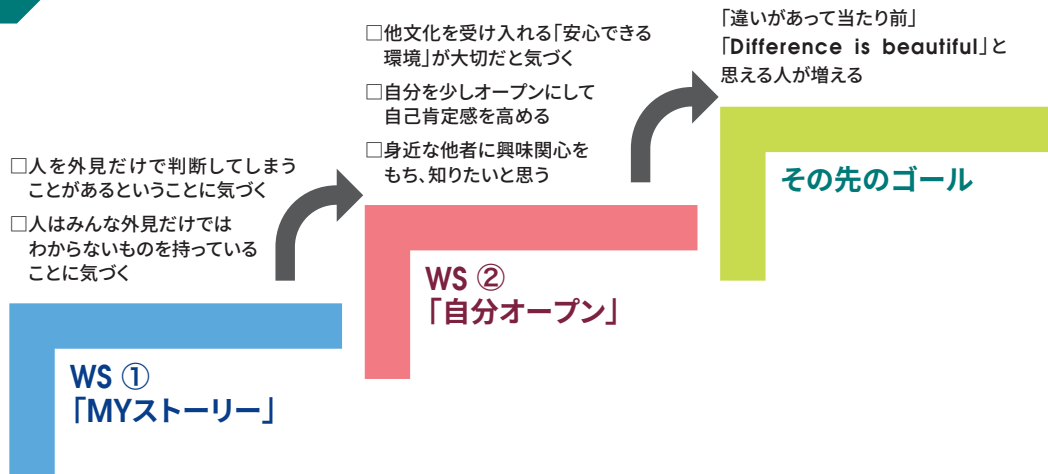
A

他者を受け入れる環境の大切さに気づいて、
自分もオープンにして自己肯定感を高めよう！



外見で人を判断していた自分に気づいて、
もっと他者や異文化に興味関心を持とう！

B



本書の使い方

本書に掲載しているワークショップでは、指導者(ファシリテーター)の手助けをかりて、学習者・参加者が新しいことに気づいたり、新しい価値観に出会ったりすることをねらいとしています。

本書をコピーして使っていただいてもよいですし、JICA 横浜のホームページから印刷していただくこともできます。また、これらのワークショップを作成した私たちの実践についても、JICA 横浜のホームページに「2019年度 JICA 横浜教師海外研修報告書」として、詳細が掲載されています。各自の実践の工夫や児童生徒の反応、本書には掲載しきれなかったアレンジ版等、ぜひ参考にしてみてください。

2019年度JICA横浜 教師海外研修参加者

氏名	学校名	学年・担当教科
菊川 正太	神奈川県立神奈川総合産業高等学校	1年 理科、総合産業科
田井 さゆみ	横浜市立六ツ川中学校	3年 理科
田中 豪	神奈川県立茅ヶ崎西浜高等学校	2年 理科
谷川 大介	鎌倉市立御成中学校	1年 社会科
名原 道子	横浜市立三保小学校	6年
兵頭 絵梨	大和市立上和田小学校	特別支援学級
深澤 歩未	甲州市立塩山中学校	3年 社会科
中野 貴之	JICA横浜	同行者
穂坂 ちひろ	JICA山梨デスク	同行者
福田 訓久	株式会社メディア総合研究所	同行者

※本書に掲載されている意見は、本研修参加者によるものであり、JICA を代表するものではありません。

※参加者の所属等は、2019年度のものであります。

● My ストーリー ●

人には外見だけではわからない物語がある

ワークショップのねらい

- ①人を外見だけで判断してしまうことがあるということに気づかせる
- ②人は外見だけではわからない背景や価値観などを持っていることに気づかせる

概要

本ワークショップは、上記2つのねらいを達成するための手助けになるものです。みなさんの周囲に、以下のような状況はありませんか？

- 他者を外見で判断して「〇〇な人」とカテゴライズし、似たもの同士だけで集まる
- 特定のメンバー以外や異文化に興味関心を示さない
- 違いを恐れて違いを隠そうとする人がいる
- 何かのきっかけで話してみたら、意外な面があることがわかった

私たちは、多文化共生というテーマのもと、このワークショップを作成する過程で上記のような現状を出し合いました。自分に自信がもてない、安心して違いを出せない、自分のルーツを隠す、違いをマイナスに捉える、異文化や他者に興味を示さない等々、このような状況を変えたいと話し合いました。ブラジルでは多くの学校を訪れました。人種の異なる子どもたちが一緒に学んだり遊んだりしていましたし、また一見おとなしそうな子と元気いっぱいそうな子が一緒に居たりする、まさに多文化が共生しているような場面をたくさん目にしました。同時に、「〇〇人」「大人しそう」「元気そう」と外見だけでカテゴライズしてしまっている自分たちにも気づいたのです。

そこで、まずは他者を外見で判断してしまい、関わろうとしない、あるいは興味関心を示さない現状を打破するためのワークを考えました。人を外見で判断していることと、実はみんな外見ではわからないものがある、ということにあらためて気づかせるための簡単なワークです。登場人物の4名は、実際に私たちがお会いして話をした人たちです。4名の、外見だけではわからなかったストーリーを聞いて、もっと知りたい、もっといろいろな人のストーリーに出会いたいと思いました。そんな多文化共生の一步を体験するワークショップです。

教材内容

解説書

写真カード(4人分)

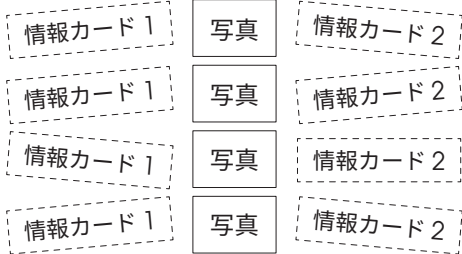
情報カード1(4人分)

情報カード2(4人分)

解説カード(4人分)

所要時間	20～40分	準備するもの	4名の写真カード(グループ分) 4名の情報カード1 & 2(グループ分) 4名の解説カード(グループ分)
1グループの人数	4名		

■進め方

<p>導入</p>	<p>4名のグループで着席させる（端数が生じる際は5名よりも3名のグループがよい） 「今日は『多文化共生』というテーマで、ワークをしましょう。多文化共生とは、異なるもの同士が共に生きることですが、私たちはそれができているでしょうか。多文化共生のためにはどのようなことが大切なのでしょうか」</p>
<p>写真マッチング</p>	<p>写真と情報カードのマッチングゲームをすることを伝える</p> <p>写真カード配布 ※各グループに4人分の写真を配布し、縦に4枚並べさせる</p> <p>ルール説明 ルール: 否定的な発言や人が不快になる発言はしないこと!</p> <p>「これから、写真の4人に関する情報を配るので、グループで話し合いながら写真とマッチングさせてみてください」</p> <p>情報カード1配布 ※当てはまると思うカードを写真の左側におく</p> <p>情報カード2配布 ※当てはまると思うカードを写真の右側におく</p> 
<p>問いかけ</p>	<p>「いろいろな組み合わせができたようですね」 「一体、何を手がかりにマッチングしましたか?」 と問いかけて、数名から回答を引き出す ※想定される回答: 外見、見た感じ〇〇っぽい、名前など</p>
<p>4名の物語紹介</p>	<p>「これから、4人について書かれたカードを配布するので、1人1枚とって、黙読してください。まだ他の人には『正解』を伝えないでくださいね」</p> <p>解説カード配布 ※この後でグループのメンバーに読み上げてもらうので、練習のつもりで読むとよい</p> <p>「それでは、写真の人になりきって順番に読み上げてください」</p>
<p>ふりかえり</p>	<p>「ワークショップのねらい」を意識して、以下のようなことを伝えたり問いかけたりしながらふりかえりを行う ※グループ内での共有、数名に聞く、ワークシートへの記入などをさせるとよい</p> <p>「写真カードと情報カードをマッチングしてみて、どうでしたか?」 「4人の写真を見て、生まれや育ち、言語、スポーツ、そして仕事を考えましたが、何か気づいたことはありますか?」 「4人のストーリーをきいて背景を知って、どう思いましたか?」 「あなたは、外見で人を判断した経験はありますか?」 「あなたは、外見で自分を判断された経験はありますか?」 「多文化共生のためには、どのようなことが大切だと思いますか?」</p>

「2019年度 JICA 横浜教師海外研修報告書」(冊子および JICA 横浜ホームページにも掲載)には、以下の校種・教科での実践事例があります。

- 小学6年生 特別活動 学級活動の内容(2)
「日常生活や学習への適応と自己の成長及び健康安全 - イ」
- 高等学校 単位制 国際理解入門(学校設定科目)

実践の工夫や児童生徒の反応、本書には掲載しきれなかったアレンジ版等、ぜひ参考に見てください。

また、JICA 横浜ホームページには、本書の PDF 版が掲載されていますので、カードなどを印刷することができます。

JICA横浜 教師海外研修

検索 

※本ワークショップは、解説カードの内容を用いて、日本人移民の歴史や現状についての調べ学習に発展させることができます。









フジコさん

りょうしん こくせき

両親の国籍

父：ブラジル

母：日本

生まれ 日本

育ち 12歳まで日本

その後ブラジル

タイスさん

りょうしん こくせき

両親の国籍

父：ブラジル

母：ブラジル

生まれ ブラジル

育ち 7歳から17歳まで日本

その後ブラジル

ルイスさん

りょうしん こくせき

両親の国籍

父：日本

母：日本

生まれ ブラジル

育ち ブラジル

オサムさん

りょうしん こくせき

両親の国籍

父：日本

母：日本

生まれ 日本

育ち 23歳まで日本

言語	ポルトガル語	日本語
スポーツ	ダンス	
仕事	つうやく 通訳	
言語	ポルトガル語	日本語
スポーツ	サッカー	
仕事	学校の先生	
言語	ポルトガル語	日本語
スポーツ	たつきゅう 卓球	
仕事	つうやく 通訳	
言語	コロニア語	
	(日本語も使える)	
スポーツ	わだいこ 和太鼓	
仕事	のうえんけいえい 農園経営	

なまえ
名前：レイチ タイスさん

う
生まれ：ブラジル

そだ
育ち：7～17歳まで日本

<タイスさんのストーリー>

わたし りょうしん
私の両親はブラジル人です。私もブラジルで生まれました。7歳のとき
ちち しごと つごう にほん い しょうがっこう ねんせい こうこう ねんせい にほん
に父の仕事の都合で日本に行き、小学校2年生から高校2年生まで日本
がっこう かよ にほん がっこう いちばんおどろ せいと そうじ
の学校に通いました。日本の学校で一番驚いたのは、生徒が掃除をする
せいかつ
ことです。ブラジルでは、清掃員さんが掃除をします。今はブラジルで生活
わたし にほんこ
しています。私は日本語もポルトガル語も話すことができますし、日本も
はな
ブラジルも好きです。



なまえ

名前：モラエス 富士子 カロラインさん

うまひ

生まれ：日本

そだ

育ち：12歳まで日本

＜フジコさんのストーリー＞

ちち はは ははにほんじん わたし にほん う さい にほん
父はブラジル人で母は日本人です。私は日本で生まれ、12歳まで日本
す にほん がっこう かよ
で過ごし、日本の学校に通っていました。その後、父とブラジルに
わた いま わたしがい かそくにほん わたし あか
渡りました。今は私以外の家族は日本にいますが、私は明るくていつも
ようき せいかく だいす
陽気なブラジル人の性格が大好きで、ブラジルで1人暮らしをしています。
にほんご はな
日本語もポルトガル語も話すことができるので通訳としてブラジルで
はたら ねん ど
働いています。年に1度あるリオのカーニバルが楽しみです。



なまえ

名前：ヤマシタ オサム さん

うまひ

生まれ：日本

そだ

育ち：23歳まで日本

＜オサムさんのストーリー＞



わたしにほんうそだにほん
私は日本で生まれ育ちましたが、日本で仕事を探すが、日本で仕事を探すことが困難になり、
さいひとり
23歳のときに一人でブラジルへ移住しました。ブラジルで日本人女性と
けっこんいままご
結婚し、今では孫もいます。村では主に「コロナ語」※ を使っています。
にほんこはな
日本語を話すことが減ってきたため孫たちは日本語が苦手です。仕事は
のうえんけいさいさいきん
農園の経営で、最近では「びわ」の栽培に力を入れています。8月には村
ぜんたいまつ
全体で「びわ祭り」を開催しています。

※コロナ語：ブラジルなどの日系社会で使われ、日本語の文脈の中にポルトガル語を混ぜて話す。

なまえ おか
名前：岡本 ルイスさん

う
生まれ：ブラジル

そだ
育ち：ブラジル

<ルイスさんのストーリー>

わたし りょうしん にほん う そだ
私の両親は日本で生まれ育ちました。それから、結婚してからブラジル
わたし わたし う わたし
に渡り、私を生みました。私は、ブラジルで生活し、両親による熱心な
きょういく
教育で、ポルトガル語と日本語を話すことができました。
げんざい
現在はブラジルで通訳の仕事をしています。

だい ころ しよくば ごうとう はい いのち ねら
20代の頃、職場に強盗が入り、命を狙われました。銃を
う
突きつけられたときは、「終わった。」という気持ちになりました。



● 自分オープン ●

安心して違いを出せる環境

ワークショップのねらい

- ①他文化を受け入れる「安心できる環境」が大切だと気づかせる
- ②参加者の自己肯定感を高める

概要

本ワークショップは、上記2つのねらいを達成するための手助けになるものです。多文化共生には、異なるもの同士が安心して共に生きる環境が必要だと考えますが、みなさんの周囲に以下のような状況はありますか？

- 他者の意見や話を積極的に聞こうとする
- 他者の意見や話に対してフィードバックをする
- すぐに否定するのではなく、聞き入れようという態度がある
- 自己開示したら受け入れてもらったので自己肯定感が高まった

私たちは、上記を理想イメージの例として掲げ、このワークショップを作成しました。普段は話さないようなことをドキドキしながらオープンにしていく過程で、受け入れられてホッとしたり、自己肯定感が高まったり、同時に受け入れる側の姿勢のありかたに気づいたりするかもしれません。多文化共生には、異なるものを受け入れる環境（受け入れ側）と、主体的に関わろうとする姿勢（関わる側）が大切だと気づいてくれるかもしれません。また、このワークを通して、異文化や他者に興味関心を持つようになったり、自分自身を見つめ直すきっかけにもなるかもしれません。

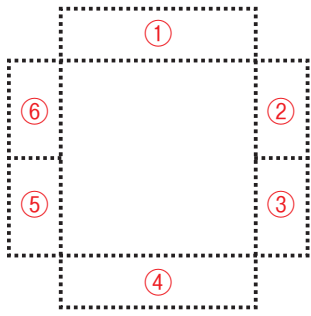
教材内容


解説書

自分カード

所要時間	30～50分	準備するもの	4自分カード(人数分) ペン 3色のシール ワークシート(必要に応じて)
1グループの人数	4名		

■進め方

	4名のグループで着席させる（端数が生じる際は5名よりも3名のグループがよい）
導入	<p>本書掲載の「Myストーリー」を実施した場合：</p> <p>「以前、Myストーリーというワークショップをして、人を外見で判断してしまうことや、外見だけではわからないことがあるということに気づいたと思います」</p> <p>「今日は、みなさん自身の外見ではわからないことを少しオープンにしていきたいと思います」</p>
自分カード作成	<p>「これから用紙を配るので、各項目について記入してください」</p> <p>「後でグループ内で発表し合いますので、書きたくないことは書かないで大丈夫です」</p> <p>「書いている時は他の人のものを見ないようにしてください」</p> <p>自分カードの台紙配布</p> <p>自分カードの項目例：</p> <ul style="list-style-type: none"> •好きな○○（○は各自が自由に設定） •小さい頃の夢 •今の私が大切にしていること •人生のこだわり •苦手な○○ •自分の性格 •今までで一番うれしかったこと •今までで一番つらかったこと •実は私… <p>自分カードのスタイル例</p>  <p>※対象年齢や時間によって項目内容と項目数を適宜設定してください</p> <p>※上図のスタイルを用いる際、中央部分には似顔絵や好きなイラスト、または名前などを書かせてください</p> <p>※本紙の最後に上図スタイル以外の台紙もあります</p> <p>各項目に記入させる際のコツ：</p> <ul style="list-style-type: none"> •各項目ごとに時間を区切って書かせると時間効率が上がります。「①に○○を書いてください。書けましたか？では次に②に△△を書いてください」 •ファシリテーターの見本を見せながら進めると書きやすくなります
自分カードの共有	<p>「ではこれからグループ内で共有しましょう」</p> <p>「これから3色のシールを配ります。シールの色にそれぞれ意味があります」</p> <ul style="list-style-type: none"> ●それ、いいね！ ●わかる～！共感！ ●すごい！ <p>「聞いている人は、各項目に対してシールを貼って反応してあげてください」</p> <p>※シールを使用しないで、口頭による反応での代替も可能ですが、シールを用いた方が反応が可視化できるので効果的かもしれません</p> <p>ルール説明</p> <p>ルール：否定的な発言や人が不快になる発言はしないこと！</p> <p>「それでは一人ずつ始めてください」</p>

	
<p>ふりかえり</p>	<p>「ワークショップのねらい」を意識して、ふりかえりを行う。 ※ワークシートに記入させてからグループ内で共有させるとよい ワークシートの設問例：</p> <p>「自分カードを書いている時どのようなことを感じましたか？」 「自分カードを発表している時どのようなことを感じましたか？」 「発表する前と後では気持ちの変化はありましたか？あったとしたらどのようなことですか？」 「人の発表を聞いている時どのようなことを感じましたか？」</p> <p><u>以下のグループワークをすると効果的です</u></p> <p>「では最後に、グループで話し合ってもらいたいと思います」 「多文化共生にはどのようなことが大切でしょうか？」 ※グループごとに話し合い、最後に発表させる</p>

「2019年度 JICA 横浜教師海外研修報告書」（冊子および JICA 横浜ホームページにも掲載）には、以下の校種・教科での実践事例があります。

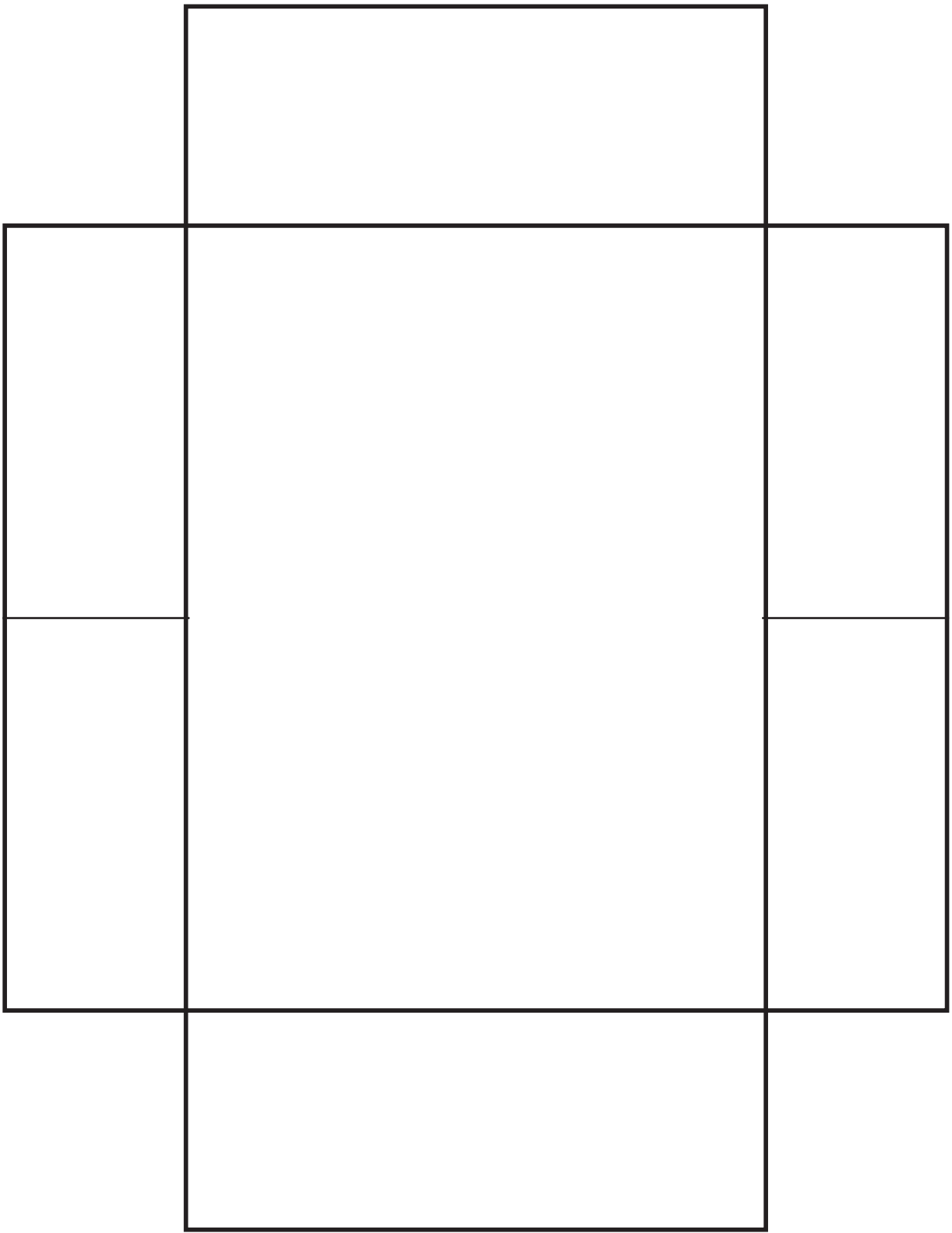
- 小学1～6年生 特別支援学級 領域を合わせた指導（生活単元学習）
- 小学6年生 特別活動 学級活動の内容（2）
「日常生活や学習への適応と自己の成長及び健康安全 -イ」
- 中学1年生 特別活動
- 中学3年生 理科 人間と環境
- 中学3年生 特別活動（学級活動）
- 高校2年生 総合的な学習の時間
- 高校 単位制 国際理解入門（学校設定科目）

実践の工夫や児童生徒の反応、本書には掲載しきれなかったアレンジ版等、ぜひ参考に見てください。

また、JICA 横浜ホームページには、本書の PDF 版が掲載されていますので、カードなどを印刷することができます。

JICA横浜 教師海外研修

検索 



名前



独立行政法人国際協力機構
横浜センター（JICA横浜）

〒231-0001 横浜市中区新港2-3-1

Tel : 045-663-3220 (直通)

Fax : 045-663-3265

E-mail : yictpp@jica.go.jp

<https://www.jica.go.jp/yokohama/>



